

☆ あ す み 野 自 治 会 ☆



あすみ野自治会は、湯舟沢地区に造成された「あすみ野団地」を中心として、平成10年4月に発足しました。

それまでは、元村北自治会の一員として活動していましたが、団地の世帯数が300世帯近くなったことから独立し、今年で13年が経過し、会員世帯数も約680世帯に達し、ますます発展が期待されています。

あすみ野自治会は、秀峰岩手山を望む地に立地し、団地内には小さな子供も遊べるせせらぎ遊歩道や、野球ができる中央公園を始め趣の異なる5箇所の公園を擁しています。

また鴨ヶ池では冬になると白鳥を観察することができるなど、自然環境に恵まれた団地になっています。

このような街並みの美観を確保するとともに住宅地としての良好な環境を維持、増進することを目的として、「あすみ野建築工事に関する基準」を定めています。

建物の外壁は道路境界線から2.5m以上とすることや、色彩については、奇抜な色又は原色に近い色彩は避けること、テレビアンテナはCATV（集合共同アンテナ）を使用すること、敷地内は緑化を増進することなどを定めています。

さて、自治会としては、まだ13年ほどであり、会員も村外や県外からの新住民がほとんどであり、発足当初は、自治会活動の経験も無く試行錯誤が続き大変苦労し活動していたと聞いています。始めの1年間は、毎月、役員班長合同会議を開催し、19時から深夜に及ぶ話し合いが持たれたことも多々あったとのこと。すべて新住民であり、自治会活動に対する関心が希薄で苦慮していたようです。自治会活動が自分たちの利益になるということ、また、新しい時代のニーズにあった活動の発見と展開から支持と信頼の獲得が始まるだろうと、模索が続けられてきました。以来、ようやく自治会活動も充実してきたように思われます。

現在、自治会は6つの専門部、体育部、防犯部、生活福祉部、美化部、環境衛生部、広報部から構成され活動をしています。

体育部の最も重要な活動の一つの4ブロック対抗での運動会、生活福祉部の子供会の協力も得てのシニアの集い(敬老会)、環境衛生部の中学育成会も参加しての一斉清掃など、子供会、育成会も自治会行事に参加してもらい、徐々に定着してきました。

自治会としてようやくまとまってきたと思われるなか、今年の3月11日に東日本大震災が発生しましたが、自治会ではまだ自主防災組織を作っておらず、自治会としてのまとまった対応ができない状況でした。幸いに大きな被害はありませんでしたが、団地南側の公園付近の道路が、法面の崩壊により陥没して通行止めとなり、現在村の復旧工事が進んでいるところです。住宅への影響はありませんでしたが、万が一に住宅への影響が出るような災害が発生した場合を考えると、自治会としての住民の救援・救護など防災組織の必要性を実感として考えさせられました。沿岸部の甚大なる被害状況を見るにつけ、自治会として何ができるのか、何をしなければならないのか、改めて考えさせられることとなり、これを機に、自主防災組織の設立に取り組んできました。計画策定のための計画ではなく、実際に機能する組織として立ち上げるために、地震、火山噴火に災害を限定し、できることから着手する計画を策定することとし、現在取り組んでいます。住民の意識がまだ褪めないうちに何とか自主防災組織を設立するため、次回自治会総会に図る予定で進めています。これを機に、自治会として更なる団結が深まることを期待しています。

